

エチクロゼート乳剤によるカキ「紋平」の収穫期前進技術

1 背景・目的

カキ「紋平」は、収穫期後半にあたる11月以降に降霰被害を受けることがあるため、着色を促進させ、収穫期を前進化することが求められている。そこで、植物成長調整剤エチクロゼート乳剤の散布による収穫期の前進効果を明らかにする。

2 技術のポイント

- (1) 満開75日後(8月中旬頃)および満開94日後(9月上旬頃)の、樹全体へのエチクロゼート乳剤2回散布は、着色を促進し、収穫盛期を7日程度前進させ、10月中に8割程度収穫できる(図)。
- (3) 収穫盛期の果実品質、食味および日持ち性への影響はない(表)。

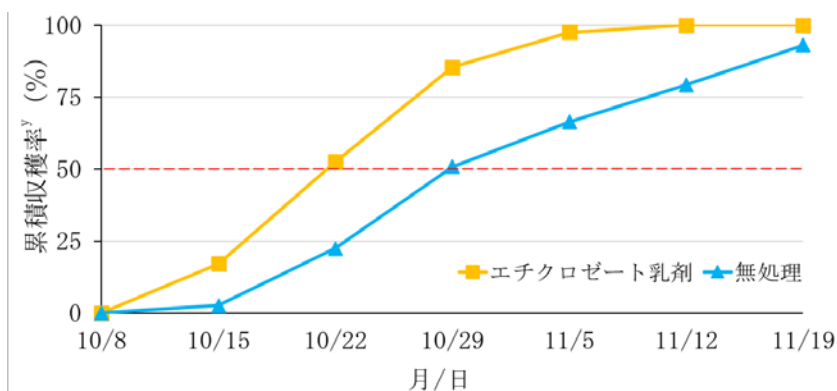


図 エチクロゼート乳剤の散布^zが累積収穫期に及ぼす影響
^z: 散布は、5,000倍液、300L/10aで満開後70~80日およびその15~20日後に行う
^y: 果頂部の着色が「カキ専用カラーチャート」4に達した果実を収穫

表 エチクロゼート乳剤の散布が果実品質に及ぼす影響

試験区 ^z	収穫時着色 ^y		脱渋後着色 ^y		果実重 (g)	糖度 (Brix%)	硬度 (kg)	渋味	食味	日持ち性 (日)
	果頂部	果てい部	果頂部	果てい部						
エチクロゼート乳剤	4.0	5.0	5.0	6.0	234	13.0	1.6	なし	中	21
無処理	4.0	5.0	5.0	6.0	239	13.3	1.5	なし	中	19
有意差 ^x	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	—	—	ns

^z: エチクロゼート乳剤および無処理は、それぞれ収穫盛期の10/22、10/29に収穫した果実を用いて調査
^y: 着色は、「カキ専用カラーチャート」を用いて調査し、中央値を算出
^x: nsは有意差なし

3 成果の活用と留意点

- (1) 本技術は、降霰被害のリスクを軽減できる。
- (2) 弱樹勢樹では、着色促進効果が劣る場合がある。

問合せ先：砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073
 担当者：前田寛朗・井須博史・中川榛野